

広領域連携型基幹研究プロジェクト
アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでおり、質的・量的側面から十分な成果が見られる

2. 総合所見及び特記事項

(総合所見)

地球研、民博、国文研の個々の研究ユニットは、それぞれの研究機関や、これまでの蓄積を土台として、大きな成果を出しており、「エコヘルス」という新しい概念、研究プログラムの展開のための基礎としての研究成果のレベルとしては十分すぎるものがある。

とはいうものの、この広領域連携型のプロジェクトの重要な使命は、その3つの研究ユニットの統合性にある。地球研は、プロジェクト・リーダーの論文も含めて、主導的な役割をしようとしている努力が、さまざまなレベルで見られており、残りの3年間で、その努力が大きな果実を生む潜在的な可能性を示しており、その点は、大いに期待される。「健康」概念という社会的にも重要な領域において、人文学が果たすべき役割について自覚することでより深い社会連携、社会貢献ができると考えられる。若手育成や国際発信に関しても、十分に成果は上がっているが、さらに、広領域連携ということをより意識したあり方について試行錯誤を重ねることが期待される。

(特記事項)

特に、優れている点

- ・「研究成果・水準」について、「エコヘルス」という新しい概念、研究プログラムを打ち出して、統合的に、新たな「健康」概念を打ち立てようとする困難だが重要な意味を持っている課題に対して、プロジェクト・リーダーのプロジェクト全体の理念と方向性を示す論文があり、国際的にも高い評価を受けている。そして、それぞれのユニットにおいても、特徴ある形で研究成果を出している。